

『外国の新聞と雑誌』に見る海外論調[1921年～1944年]

A5判上製函入・全3期
 セット価格560,000円 全30巻十別巻・総目次 総10,410頁
 世界初の総力戦・第一次大戦の戦後処理が続く1921年に生まれ、その後23年間にわたって欧米各国のすぐれた時局論説・記事を紹介しつづけた会員制高級誌『外国の新聞と雑誌』。国内の政策立案者らに大きな影響を与えた膨大な記事の中から、テーマ別にいまだ色褪せぬすぐれた論説・記事を精選。イデオロギー、外交、金融、工業、メディア、福祉、人口、移民、教育……、現代の主要な問題がほぼ出揃った20世紀前半、そのダイナミックなうごきをリアルタイムな視点で検証することが可能になる資料。また、紛れもない「世界の中の日本」を巨視的に把握することができ、さらには今後の情勢をも占うことが可能になるエレガントな文書集です。

第1回配本：日本・イギリス編

筒井清忠(京都大学教授)・本田毅彦(帝京大学教授)編
 全10巻 揃180,000円
 黄濁論、移民問題、軍事、日米問題、植民地、労働問題など欧米から見た日本の姿と、帝国ブロック、国内ファシズム、英米日三角関係、金本位制、インド、中東問題などイギリス帝国の時局政策論。バーナード・ショー、トインビーらのハイレベルな評論が満載です。

第2回配本：アメリカ・ドイツ編

中西寛(京都大学助教授)・佐藤卓己(国際日本文化研究センター助教授)編
 全10巻 揃180,000円
 アメリカ編はワシントン会議、極東政策、KKK、ニュー・ディールなど、ドイツ編は賠償金問題、再軍備、ナチの権力掌握、ナチ外交などに関する論考を紹介。ケインズ、ガルブレイス、シュミット、ノイマンら著名な論客の時局論文が多数登場します。

第3回配本：諸テーマ編

津金澤聡廣(桃山学院大学教授)・佐藤卓己編
 全10巻 揃200,000円
 ソヴィエト・共産主義／中国・満洲問題／ファシズム運動／メディア／科学・技術・産業／教育・学術・思想／宗教・民族問題／女性問題／大衆社会現象／人口問題……現代の諸問題へと繋がる多彩なテーマ群。別巻には『外国の新聞と雑誌』全目次を収録しました。

「満州」における教育の基礎的研究

竹中憲一著
 A5判上製函入・全6巻・総1968頁
 揃75,000円
 「遅れてきた近代国家」が、その帝国理念の巨大な実験場とした「満州」。帝国建設に向け、教育政策は、最重要政策課題の一つであった。それぞれの理想と野望を胸に秘め次々と打ち出された教育政策の全容に実証からせまる、浩瀚な研究。関東庁、南満洲鉄道会社附属地の初等・高等・社会教育機関を中心に膨大な未公開史料を掲載・駆使して「事実」を提示。参考史料1800点、年表、事項索引、人名索引も完備した画期的基礎研究書。

在満日本人用教科書集成

磯田一雄・槻木瑞生・竹中健一・金美花編
 B5判上製函入・全10巻・総3704頁
 揃180,000円
 朝鮮や台湾での明白な皇民化教育とは異なり、たとえ建前であったとしても「五族協和の王道楽土」をスローガンに推進された満州教育。その実態はいかなるものであったのかは、多文化共存があらためてスローガンとなり、新アジア連合構想が提唱される現代において検証欠くべからざるテーマとなっている。本資料集は、1932年「満州国」成立に先立つ1926年から1944年までに作成・使用された日本人用教科書・副読本・教師用指導書など全130冊を復刻し、満州教育の基礎資料を提供するものである。

文部省編 時局に関する教育資料 全15巻

第1輯～第34輯・特別輯1～6(大正4～9年)

現代に貫通する、総力戦が生んだ革新的教育政策資料
 デモクラシーの主張に親和性を持つ大正・昭和前期における教育拡充政策すらも、じつは、国民総動員体制確立のための基礎作業の一環を担っていた。

一九一四年六月、バルカン半島に火蓋を切った第一次大戦は、史上初の総力戦として参戦国の社会構造を激変させました。そして、戦間期に拡充された総力戦体制は、第二次大戦での惨劇を経ながら、いまなお社会の大きな枠組みとして機能しています。ここに復刻した「時局に関する教育資料」(一九一五～一九二〇年)は、列強に互する国民総動員体制を築くために推進した、教育を中心とする社会政策の源泉を明らかにするだけではありません。それが同時に、民主的・合理的教育政策を先取りし、軍国主義イデオロギー教育ですらも、欧米に範をとった新しい方法論に立脚していたことを明らかにしています。さらには、現代社会の構造的行き詰りの原因を探るといふ汎社会科学の課題に対し、様々なヒントを与え得るテキストとして、聊かの裨益をなすものと信じます。

「本資料集の特色」

- 第一次大戦勃発を期に、文部省普通学務局の調査委員会が、書籍・雑誌・報告書などから収集・翻訳した欧米の教育政策資料全40輯を完全復刻。写真も50点余収録。
- 内閣諮問機関である臨時教育会議(一九一七年以降)に提出され、その後の教育改革の理念的・政策的バックボーンを規定しながら、従来看過されていた資料。
- 第二次大戦後の教育政策を先取りしていた阿部重孝が、一九一八年から調査委員となり、アメリカの合理的教育政策や新研究を紹介。
- 教育問題のみならず、現代の福祉政策や科学政策、あるいは欧州統合問題やナショナリズム問題など、現代社会の諸問題がトータルに考えられることを示唆する資料。

◆監修 山之内 靖 (フェリス女学院大学教授、東京外国語大学名誉教授)
 ◆解説 大内 裕和 (東京大学大学院)
 ◆体裁 A5判上製クロス装函入 全15巻、各巻平均550頁、総8250頁
 ●全巻揃定価 本体280,000円+税 分売不可
 限定150セット

取扱店	
-----	--

柏書房
 〒113 東京都文京区本駒込1-13-14
 TEL.03-3947-8251, FAX.03-3947-8255
 E-mail:kashiwa@tb.cnet.or.jp

お薦め先

- 大学・大学図書館
- 教育学
- 社会学
- 歴史学
- 政治学
- 国際関係論
- ジェンダー研究
- 公共図書館

『時局に関する教育資料』を推薦します 〔50音順敬省略〕

「現在」につながっている「過去の亡霊」

上野千鶴子 （東京大学教授 社会学）

教育はおそろしい。とりわけ学校教育は、国民国家最大の組織的なマインドコントロールの装置だ。教育のプロパガンダ効果をいちばんよく知っていたのは権力の側だろう。国民学校の軍国少年・軍国少女はどうやってできたのだろう。戦後の教科書検定と管理教育のなかで、戦後教育のツケは現代の若者にも色濃くあらわれている。「過去の亡霊」はそのまま、わたしたちの「現在」につながっている。それを教えてくれる貴重な資料集だ。

現代日本の教育史にあらたな視角を提示

加藤秀俊 （中部高等学術研究所所長 社会学）

古今東西を問わず、「教育」はそれぞれの時代の原因であり、同時にまた結果であった。それはある時期に蒔かれた種子が一定の時間の経過後に発芽し、花を開かせるのに似ている。いま、ここに復刻された『時局に関する教育資料』は、わたしにとって初見の文献だが、大正デモクラシーの絶頂期の教育資料はいみじくも、それから10年後の日本の戦時体制への移行期とリンクしているかのようである。わたしは、あらためて日本の現代教育史へのあらたな視角を教えられたのであった。

教育現代化の初発を探る資料群

佐藤秀夫 （日本大学教授 日本教育史・教育史料研究）

日本の近現代教育は、明治初年から今日に至るまで、国際的な動向を絶えず気に留めながら展開されてきた。学童疎開にみるように、第二次大戦中といえども例外ではなかった。第一次大戦後の大正期は、総力戦体制の試みをはじめとした欧米諸国の教育状況を吸収しつつ、日本の教育現代化に踏み出した時期である。文部省普通学務局が1915年から1920年にかけて全40冊にわたり刊行した『時局に関する教育資料』は、文部省による

当時の海外教育情報調査・研究の集大成であり、日本現代教育の初発を探る貴重な資料群である。

国民とは、教育され作られた存在である

西川長夫 （立命館大学教授 比較史・比較文化論）

世界大戦の時代は、参戦国のすべてが世界的なシステムの中で国家としての機能を最大限に発揮せざるをえないだけに、国民国家の本質が露呈する。国民化を進める中心的な装置である文部省に、欧米各国の総力戦体制の実態をこのように明確に把握し分析しうる冷静で明晰な精神と能力が存在しえたことは興味深い。国民とは愛国心をもつことを強制され、他の国民を殺害する能力を身につけるように教育され作られた存在であることを、これほど見事に証明してくれた資料も少ないだろう。教育や研究にたずさわる人々が、いま自分がしていることの意味を考えるためにも、ぜひ読んでほしい資料である。

新しい反戦の論理を築くための必読資料

西川祐子 （京都文教大学教授 ジェンダーと文化）

国民教育を担う文部省の戦争準備は、さすがに周到に行われていた。当時の言い方では欧州戦争、現代で言う第一次世界大戦の両陣営の公文書、報告書だけではなく、銃後を護り、労働市場へ参入した女性たちの生の声の記録にいたるまでこのように大量に翻訳していたとは！この資料により、戦争が激しくなればなるほど敵対する両陣営の戦争動員体制や戦争協力のディスクールが実によく似てくるのがわかるであろう。この後の十五年戦争において、日本の女性参政権要求運動は政治参加の権利要求とひきかえに戦争協力にいたる。彼女たちのディスクールは国家によりあらかじめ読まれていたとさえ、思う。今、私たちが反戦の論理を築くために、必読の資料である。

『時局に関する教育資料』復刻にあたって

このたび復刻される『時局に関する教育資料』は、1915年から1920年にかけて文部省普通学務局が作成・頒布した資料である。

第一次世界大戦は、参加者当事諸国の当初の予想をはるかに超えた規模の戦争へと拡大し、史上初の「総力戦」という様相を示すにいたった。局外にあった当時の日本の行政官僚にとっても、この新たな事態の正確な掌握は焦眉の課題とされたのであった。当時の日本の行政官僚が機敏にデータを蒐集し、その網羅的な翻訳・紹介に努めている有様は、驚くに値する。

本資料は、参戦各国の動員体制に伴う教育政策の展開を克明に紹介したものとなっている。教育における機会均等、女性の社会参加に伴う教育拡大、児童・社会福祉の推進、障害児教育充実といった内容を含む本資料は、第一次世界大戦という「総力戦」が、一国全体のあらゆる資源を戦争目的のために動員することによって、教育における「近代化」や「合理化」を促進させたことを明らかにしている。ファナティックな非合理主義に貫かれていたとするこれまでの戦時期像の転換は進みつつあるが、本資料もそうした像の一面性を明確に反証している。愛国心の広がりや連動した教育機会の拡大は「大衆の国民化」を促進した。総力戦下、参戦各国は「階級社会」の変容を不可避の課題とせざるを得なかったものであり、システムの機能化された現代社会に向けて本格的な歩みを開始したのである。

文部省官僚による本資料の作成が、日本の教育行政のその後の展開と日本の教育学のその後の発達に少なからぬ影響を及ぼしたことも、見落とせない。たとえば、この資料調査に携わった教育学者阿部重孝は、1930年代において教育制度改革をリードしたのであったが、阿部の改革思想は、第二次世界大戦後において現実化された改革構想（教育の機会均等とそれに基づく六・三・三制）を先取りしていたことが近年の研究によって明らかにされつつある。本資料は、阿部の基本構想がまさしく第一次大戦期に形成されたという事実を如実に物語っており、ひいては、「民主化」された戦後社会のシステムが、実際には「総力戦」が強制する〈国民総動員体制〉によって大きく規定されているという事態を示しているのである。

「総力戦」以後の現代社会における教育は、経済や政治といった他の社会諸システムと、それまで以上に密接な連関を持つようになったのであり、本資料は教育学や歴史学はもちろん、社会学、経済学、政治学といった領域の研究にとっても資する点が多いであろう。新たな現代史・現代社会研究に本資料が汎く活用されることを願って止まない。

山之内靖 大内裕和

第一次世界大戦が生んだ《総力戦体制》の導入は、教育政策を核にして、現代日本の社会システムを形作った――

特徴

総力戦と国民教育のみならず、現代社会をめぐるさまざまなテーマに、斬新な歴史的・類型的視点を提供する、汎用性高い8,000頁余。

●たとえば、このような事象に……

- 愛国心の涵養◎3・4・6・特1・特2・特3・15
- 大学・高等教育と戦争◎2・14・18・34
- 児童と戦争◎5・8・特1・特2・16・24
- 教員と戦争◎3・14
- 欧州の教育改革政策◎9・11・12・特4・21・22・26・31
- アメリカの教育改革政策◎特4・18・25・31・33
- 女子教育◎9・11・17・21・22
- 女性の戦時動員◎14・17・20・21・22
- 教育機会の拡充◎12・特4
- 社会福祉政策◎16・19・24・25・特6・31・33・34
- 実業教育と生産力◎9・13・14・20
- 理化学教育◎7・9・11
- 科学的学校調査◎27・28・29・30
- 農村と教育◎23・31
- 図書館と教育◎32

……その他、使える情報が満載。
(数字は輯のNoを示し、「特」は「特別輯」の略)

「時局に関する教育資料」の主な内容（発行順）

■1915年・大正4年

第1輯 [1915 (大正4) 年6月]

- 一、時局と英吉利：戦争と英国文部省の施教、戦争と学校及学生、戦争と少年の訓練、雑件（「日本より得たる教訓」など）、他
- 二、時局と仏蘭西：戦争と仏蘭西の教育界、仏蘭西人の意気、陣中美談
- 三、時局と露西亜：戦乱と国民教育、時局と露国の青年及学校、露国禁酒の現在及将来、戦時雑件（「母の愛国心」など）、他
- 四、時局と白耳義：白耳義開戦の道徳的意義、他
- 五、時局と独逸：独逸国民の敵愾心、国民の後援と救済事業、戦争と教育、独逸国民の思想と感情、独逸国民の対日感情、他

【凡例より】「一、今次世界の動乱は前代未聞の事に類し、戦局の展開に伴い其の影響の及ぶ所愈々重大なるものあらんとす。此の時局に於て、我邦教育の将来に対し周密的な注意と慎重なる研究を要すべきもの甚少からざるべきを念ひ、曩に本省内に委員を設けて特に時局に関する教育資料の調査に着手せしめられたり。本書収載する所は同委員に於て蒐集せるものに依る。今後調査の進行するに随ひ、第二輯以下を刊行せんことを期す。（略）」

目次	
一、戦争と佛蘭西の教育界………	1
二、露西亜の教育界………	15
三、戦時における露西亜の教育………	25
四、その二、教員………	35
五、戦時中の小學生………	45
六、戦時中の小學校………	55
七、戦時中の小學校………	65
八、白耳義の教育………	75
九、全國民童より軍隊に歸りたる児童………	85
十、獨逸人の前日に於けるライプツィヒ市の教育状況に関する報告………	95

第1輯「時局と仏蘭西」詳細目次(部分)

初期は、主要参戦国別構成をとり、多岐にわたる時局報告と戦意高揚のプロパガンダ関係記事が多く、まだ総力戦の実態を掴みきれていない。

第2輯 [1915 (大正4) 年7月]

- 一、戦争と学校／二、戦争と大学
- 【凡例より】「一、本輯収載する所は、時局に関する教育資料調査委員会に於て最近欧州出版の時局叢書中より選択抄訳せるものに依り、一は「戦争と学校」(Krieg und Schule)と云ひ、一は「戦争と大学」(Krieg und Universitaet)と題せり。而して前者は舊国元文部省参事官アマツテイアス氏の所論、後者は素蘭園菜府大学新総長ケステル氏の就任演説なり。（略）」

第3輯 [1915 (大正4) 年9月]

- 一、時局と英吉利：国民的信念の響、戦争と教育（「少年団に就いて」など）、他
- 二、時局と仏蘭西：戦争と教育、戦局雑件（「戦争の由来に就いて」など）
- 三、時局と露西亜：露西亜人の戦争観、時局雑件（「日本研究の必要に就いて」など）、他
- 四、時局と伊太利：戦争と伊太利国民の意気（「小学女教員の従軍熱」など）、他
- 五、時局と独逸：戦争の独逸精神的意義（「心霊の動員」など）、独逸国内整理組織事業、他

第4輯 [1915 (大正4) 年10月20日発行・178頁]

クラム博士「独逸と英吉利」（第二講「平和と戦争」など）

独将ベルンハルディ「兵力と国民教育との関係に対する意見」

イエナ大学教授オイケ博士「独逸精神の世界歴史的意義」

【凡例より】「一、(略)本輯に於ては、英徳二国の国民精神に関する名家の講説中、我教育上参考となるべきものを選びて之を採録せり。(略)二、「ベルンハルディ」の所説は、(略)最後に日本の一面を得得せる論旨に至るまで一として他山の石たらざるは無し。(略)」

第5輯 [1915 (大正4) 年12月]

- 一、時局と英吉利：教育改革の機運、時局と英国婦人、理化学界の奮起、他
- 二、時局と仏蘭西：国歌「ラ・マルセイエイズ」の謠、国民教育と戦争、他
- 三、時局と露西亜：露国に於ける産(工)業動員、露国に於ける学生動員及少年軍隊、露国禁酒の後日（「禁酒の生産力に及ぼせる影響」など）、他
- 四、時局と伊太利：伊太利皇室と戦争、戦争と教育界、他
- 五、時局と独逸：独逸皇帝の勅語、戦争と教育（「独逸少年は如何に此戦争を体験すべきか」「小学児童の戦争画」など）、他

■1916年・大正5年

第6輯 [1916 (大正5) 年3月]

- 一、英吉利の部：モンズ及び諸河時戦陣の逸事、北海に於ける海軍の美事
- 二、仏蘭西の部：戦陣の壮烈事、義勇と恩愛、美事雑件（「軍国少年の意気」など）、他
- 三、露西亜の部：戦場の勇武、美事雑件（「少年軍の看護振り」など）、他
- 四、伊太利の部：戦場の壮烈事、美事三件（「伊国少年の出征熱」など）
- 五、白耳義の部：殉国の悲壮事（「婦人の勇氣」など）、美事雑件
- 六、独逸の部：戦場の勇闘、学校及び学生、婦人の美事、他

第7輯 [1916 (大正5) 年5月]

- 一、時局と英吉利：学校と軍事教育、理化学と戦争、産業と戦争、他
 - 二、時局と仏蘭西：戦争と学校、リヨンの戦時事業、他
 - 三、時局と露西亜：開戦一周年後の露西亜、幼年学校生徒訓練、他
 - 四、時局と伊太利：伊太利皇室と戦争、戦争と教育界、他
 - 五、時局と独逸：戦争と教育、理化学と戦争、独逸婦人と戦争、他
- 【凡例より】「一、本輯集載する所、前諸輯の後を継ぐものなりと雖、局面の次第に展開し来れるに従ひ、資料亦新にして、戦局の推移に伴ふ各国内の情勢の一斑を窺ふに於て、参考上有益の資たるもの少からず。」

總目次	
一、時局と英吉利………	1
二、時局と英吉利………	15
三、時局と英吉利………	25
四、時局と英吉利………	35
五、時局と英吉利………	45
六、時局と英吉利………	55
七、時局と英吉利………	65
八、時局と英吉利………	75
九、時局と英吉利………	85
十、時局と英吉利………	95

第8輯 [1916 (大正5) 年8月]

一、争乱開擾の世界（英国ロンドン大学社会学教授 ホップハウス）

五、国民教化と戦争（独逸 エ・ザイデマン）

六、小学校の精神と戦争（独逸 カルル・シュナイデル）、他

【凡例より】「一、本輯は英国及び独逸の学者思想家が今回の戦乱に関して発表せる論説を主として採録せり。」

特別輯 第1 [1916 (大正5) 年11月] 【写真12点】

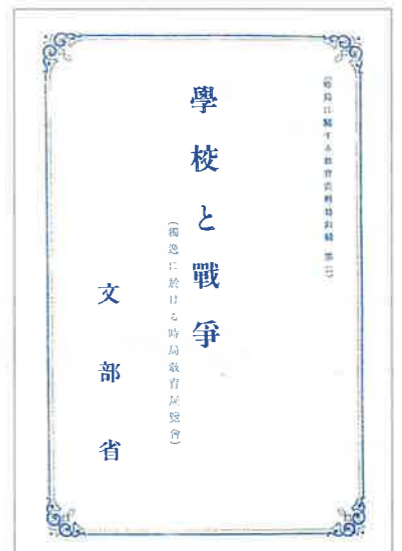
列強の少年義勇団（英国、米国、仏国、独逸、露国、伊国）

【凡例より】「(略)本輯に於ては、専ら列強の少年義勇団の梗概を紹介し、高本戦役に於ける其の活動をも叙して、以て我国青年少年等の指導者の参考の一助に資せむとす。(略) 英国は少年義勇団の運動の発源地たるを以て、大部分の資料を英国に採り、創設者バーデン・ハウエル卿の『スカウティング・フォー・ボーイズ』に依りて組織及訓練の概要を記述せり。」

特別輯 第2 [1916 (大正5) 年12月] 【写真23点】

学校と戦争（独逸に於ける時局教育展覧会）

【凡例より】「本輯は昨年三月柏林に於て独逸主催の下に塊英二国の共同に依りて開催せられたる「学校と戦争」と名くる時局教育展覧会に関する記事を掲載せるものである。(略)」



特別輯第2「学校と戦争」とびら

特別輯は不定期で6冊刊行された。第2は、ドイツの「時局教育展覧会」を紹介。



特別輯第2収録図版より

展示品のひとつ、ベルリン在住の男子小学生が描いた戦争画